



JA新しいわての自己改革

もっと知ろう、JAの取り組み

JA新しいわての「農家所得の増大」や「地域の活性化」に向けた取り組みを紹介。今月は、野菜のPR強化に向けた「野菜応援隊」の取り組みを紹介します。

野菜応援隊とは

JAでは、「日本一の産地チャレンジ運動」を展開し、農畜産物販売額500億円、その中で野菜の販売は120億円を目指しています。管内の野菜のPRを強化しようと、平成28年7月に、3人の女性生産者に委嘱状が手渡され活動が始まりました。ユニット名は「Monzla Skasyells(もんずら すかしえーるず)」、方言の「もんずら(丸ごと・全部)」、「すかしえる(教える・伝える)」に、エールを組み合わせたもので、生産者の思いを全部伝えたいという気持ちが込められています。

活動の様子



H28.07 園芸産地出荷式



H28.07 夏野菜トップセールス



H29.07 夏野菜トップセールス



H29.12 秋冬野菜試食販売(東京都内)



H30.07 夏野菜トップセールス



H30.12 秋冬野菜トップセールス

第二期の活動について



たかむら なるみ
高村 成美さん (岩手町・キャベツ生産者)Ⓞ
たむら まりこ
田村 真理子さん (八幡平市・小松菜生産者)Ⓞ
くどう みお
工藤 美緒さん (二戸市・キュウリ生産者)Ⓞ

農産物の良さはもちろん、生産者の思いを全国に、まるごと伝えたいと思い活動してきました。自分達が一生懸命作った野菜が多くの人に届き、必要とされていると感じました。そして、私たちが作った野菜で人と人が繋がっていると実感しました。今まで以上に良い野菜を作り、さらに力強いJA新しいわてになるよう頑張っていきたい。そして、多くの人たちに私たちの活動も伝えていきたいです。